

環境経営レポート

2023年度



マテック 株式会社

2024年10月1日発行

本環境活動レポートは、2023年6月～2024年5月の運用期間についての報告である。

・・・目　次・・・

1.事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1～4
2.環境方針・・・・・・・・・・・・・・・・	5
3.環境目標とその実績・・・・・・・・	6
4.主要な環境活動計画の内容・・・・・・・・	7
5.環境活動計画・・・・・・・・	8
6.環境活動の取組結果の評価・・・・・・・・	9
7.次年度の取り組み内容・・・・・・・・	10
7 - 1.次年度の環境経営目標・・・・・・・・	10
7 - 2.次年度の取組内容・・・・・・・・	11
8.環境関連法規への違反、訴訟等の有無・・・・・・・・	12
9.代表者による全体評価と見直しの結果・・・・・・・・	13

1. 事業概要

(1) 事業者名及び代表者名

マテック株式会社 代表取締役 桐越 広典

(2) 所在地

本 社 〒329-2763 栃木県那須塩原市井口173
第二工場 〒329-2761 栃木県那須塩原市東遅沢347-1

(3) 設立年月日

昭和57年11月1日

(4) 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 専務取締役 桐越 英美子
担当者連絡先 EA21事務局 山田 陽香
電話番号 0287-37-2877 FAX番号 0287-36-6985

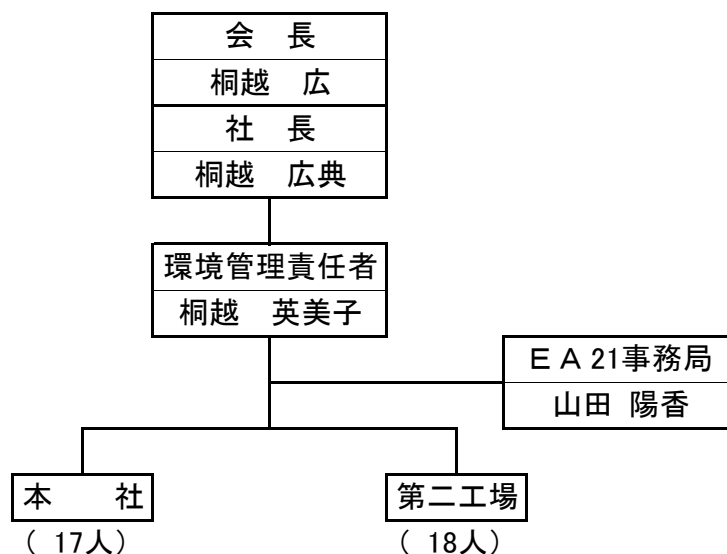
(5) 事業内容

- ・ 古物取引業
- ・ 産業廃棄物処分業(中間処理)
- ・ 産業廃棄物収集運搬業
- ・ 一般廃棄物処分業
- ・ 一般廃棄物収集運搬業
- ・ 計量証明事業(質量)
- ・ 第一種フロン回収業

(6) 事業の規模

資本金 50百万円 売上高 1035百万円(2023年度実績)
従業員数 35人 敷地面積(本社) 6,050 m²
(第二工場) 15,950m²

(7) 組織図



(8) 許可内容一覧

産業廃棄物処分量(中間処理・切断)

許可地域	許可番号、許可年月日 許可の有効期間	許可品目
栃木県	00920033764	金属くず、廃プラスチック、紙くず、木くず、 ガラスくず・コンクリート及び陶磁器くず、が れき類(いずれも金属くずの付着物に限る)
	平成17年10月24日	
	R2. 10. 24～R7. 10. 23	

産業廃棄物収集運搬業

許可地域	許可番号、許可年月日 許可の有効期間	許可品目
栃木県	00910033764	積替えなし：汚泥、廃油、繊維くず、動物性残渣、ゴムく ず積替えあり：廃プラスチック、紙くず、木くず、金 属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器く ず、がれき類
	平成7年9月18日	
	R2. 09. 18～R7. 09. 17	

一般廃棄物収集運搬業

許可地域	許可番号	許可年月日	許可の有効期限	許可品目
那須塩原市	20	H21. 04. 01	R5. 04. 1～R7. 03. 31 (更新手続中)	可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ、鉄くず、木 くず、古紙、缶、びん、ペットボトル、発泡 スチロール等、小型家電、特定家電4品目
大田原市	155	H18. 04. 01	R6. 04. 1～R8. 03. 31	可燃ごみ、不燃ごみ、資源ごみ、粗大ごみ

一般廃棄物処分量(金属類に限る)

許可地域	許可番号	許可年月日	許可の有効期限	許可品目
那須塩原市	21	H21. 04. 01	R5. 04. 01～R7. 03. 31 (更新手続中)	金属類、粗大ごみ

自動車リサイクル法に基づく引取業・フロン類回収業・解体業・破砕業

許可地域	事業内容	許可番号	許可有効期限
栃木県	引取業	20091000733	R4. 10. 29～R9. 10. 28
栃木県	フロン回収業	20092000733	R4. 10. 29～R9. 10. 28
栃木県	解体業	20093000733	R6. 7. 1～R11. 6. 30
栃木県	破砕業	20094000733	R6. 11. 25～R11. 11. 24

その他

古物取引業

許可地域	許可番号	交付年月日
栃木県	411080000489	H10. 07. 23

計量証明事業

許可地域	登録番号	登録年月日
栃木県	4703	H06. 07. 26(本社)
栃木県	1206	H23. 10. 28(第二工場)

第一種フロン類回収業

許可地域	登録番号	許可の有効期限
栃木県	1－545	R4. 10. 29～R9. 10. 28

(9) 施設等の状況

・ 処分業(本社)

処理施設の種類	
・ 中間処理(切断)	
・ 一般廃棄物(金属類)	
処理の能力(規模)	
・ 切断機(エコノシャ ー600t)	1台
・ プレス(15kw)	1台
・ バックフォー	4台
・ フォークリフト	3台
取り扱う 産業廃棄物の種類	処理能力
・ 金属く ず	144.0 t /日 (18.0 t /時)
・ 廃プラスチック(金属く ずの付着物に限る)	
・ 紙く ず(金属く ずの付着物に限る)	
・ 木く ず(金属く ずの付着物に限る)	
・ ガラスく ず、コンクリートく ず及び陶磁器く ず(金属く ずの付着物に限る)	
・ がれき類(金属く ずの付着物に限る)	

・ 収集運搬業(本社)

収集運搬車両の種類と台数			
・ 塵芥車	2台		
・ キャブオーバー	11台		
・ 脱着装置付コンテナ専用車	5台		
・ ダンプ	2台		
・ 軽トラック	2台		
積替保管施設の保管能力			
取り扱う 産業廃棄物の種類	面積(m ²)	容量(m ³)	高さ(m)
・ 金属くず	11. 16	7. 59	1. 02
・ 廃プラスチック	11. 16	7. 59	1. 02
・ 紙くず	3. 33	3. 00	0. 90
・ 木くず	9. 97	6. 78	1. 02
・ ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器	3. 33	3. 00	0. 90
・ がれき類	6. 84	8. 00	1. 46
取り扱う 一般廃棄物の種類			
・可燃ごみ・不燃ごみ・粗大ごみ・鉄くず・木くず・古紙・缶・びん・ペットボトル ・発泡スチロール等・小型家電・特定家電4品目			

(10) 処理実績

・ 処分業

中間処理(切断)の実績(2023年6月～2024年5月)

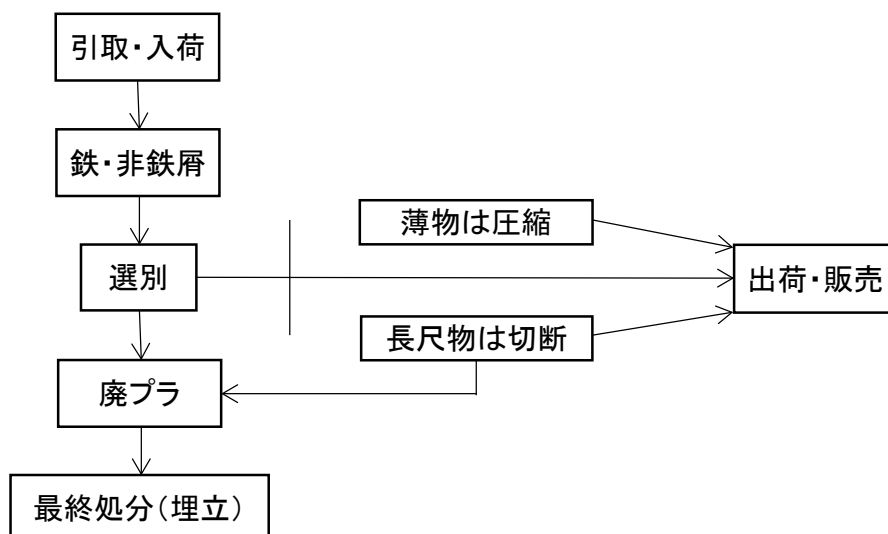
	廃棄物の種類	処分量(t)
産業廃棄物	金属くず	254.43
	ガラスくず	8.77
	木くず	39.05
	陶磁器くず	0.00
	がれき類	0.00
	廃プラスチック類	124.37
	紙くず	0.00
一般廃棄物	空缶	0.00

・ 収集運搬業

実績(2023年6月～2024年5月)

	廃棄物の種類	処分量(t)
産業廃棄物	金属くず	215.66
	紙くず	0.00
	ガラスくず	1.26
	がれき類	616.08
	木くず	47.31
	陶磁器くず	0.00
	廃プラスチック	56.80
	汚泥	6.32
	廃油	5.28
一般廃棄物	可燃物	57.09
	不燃物	65.16

(11) 処理工程



* 当社は、全ての組織・全ての活動を
認証登録の対象範囲としています。

2. 環境方針

経営理念

地域社会に必要とされる企業を目指す

環境経営方針

マテック株式会社は、全従業員一丸となって事業を通じ、
鉄及び非鉄金属を始めとした、資源のリサイクルに努め、
地域社会の環境保全に貢献して参ります。

また、エコアクション21環境経営システムを構築し、
環境経営目標を定め、継続的な改善を維持することにより、
環境負荷の低減に努めます。

重点取組項目

- (1) 運搬車輛、荷役車輛の燃料(軽油)消費量を削減する。
- (2) 事業所における電力消費量を削減する。
- (3) 事業所から排出される廃棄物を削減する。
- (4) 事業所における水使用量を削減する。
- (5) 循環資源量の増加に努める。

環境関連法規制等を遵守し、地域環境の保全に努めます。

この環境方針は、全従業員に周知するとともに、
広く社外にも公表し、地域に根ざした企業として、
住民の皆様との相互コミュニケーションを大切にしていきます。

2021年4月1日改訂
マテック株式会社
取締役社長

桐越 広典

3. 主な環境負荷

(本社)

		単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
①総エネルギー投入量	購入電力	MJ	1,369,466.5	1,466,115.0	1,438,345.3	1,022,703.3
	化石燃料	MJ	4,777,081.3	5,927,215.0	5,844,749.4	4,020,206.2
②物質投入量	循環資源投入量	t	0.0	0.0	0.0	0.0
③水資源投入量	上水	m ³	262.0	279.5	288.5	210.5
④温室効果ガス排出量	【二酸化炭素】	kg-CO ₂	394,663.4	466,019.4	408,674.0	335,183.7
⑥受託した産業廃棄物の処理量	収集運搬量	t	304.4	614.5	4,167.7	948.7
	中間処理量	t	1,670.3	1,730.4	1,730.5	426.6
	うち再生資源化等量	t	1,661.6	1,706.1	1,714.9	296.6
	最終処分量	t	8.7	24.3	15.6	38.4
	有価物	t	1,661.6	1,706.1	1,714.9	
⑦廃棄物等総排出量	再生利用	t	86.4	175.2	176.9	
	単純焼却・最終処分	t	76.9	192.2	46.9	
⑨総排水量	下水道	m ³	262.0	279.5	288.5	210.5

(第二工場)

		単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
①総エネルギー投入量	購入電力	MJ	1,313,632.1	1,491,781.1	1,323,747.1	1,449,189.8
	化石燃料	MJ	1,629,464.4	1,870,847.0	1,424,248.0	1,589,272.8
②物質投入量	循環資源投入量	t	0.0	0.0	0.0	0.0
③水資源投入量	上水	m ³	378.0	380.0	468.0	251.0
④温室効果ガス排出量	【二酸化炭素】	kg-CO ₂	183,187.3	193,217.2	362,539.0	177,453.2
⑥受託した産業廃棄物の処理量	収集運搬量	t				
	中間処理量	t				
	うち再生資源化等量	t				
	最終処分量	t				
	中間処理後の産廃の処分量	t				
⑦廃棄物等総排出量	再生利用	t	0.0	0.0	0.0	0.0
	単純焼却・最終処分	t	0.0	0.0	0.0	0.0
⑨総排水量	公共用水域	m ³	378.0	380.0	468.0	251.0

* 当社の決算年度は6月～翌5月まで

* 受託した産業廃棄物の処理量は本社に含む

4. 2021年度からの中期目標

(1) 本社

2020年度(2020年6月～2021年5月)の実績を基準として3年間で5%削減させることを目標として定めた。目標値を下表に示す。

項 目		基準 (2020年度)	2021年度 2 %削減	2022年度 4 %削減	2023年度 5 %削減
①二酸化炭素排出量 (kg- CO ₂) 394, 663	消費電力量(kwh/t)	12. 16	11. 92	11. 67	11. 55
	軽油消費量(l/t)	10. 48	10. 27	10. 06	9. 96
		394, 663	386, 770	378, 876	374, 930
②廃棄物排出量 (k g /年)	廃プラ(t)	107. 91	105. 75	103. 59	102. 51
	廃油(l)	13, 455	13, 186	12, 917	12, 782
	木くず(t)	36. 85	36. 11	35. 38	35. 01
③総排水量(m ³ /年)		262	256. 8	251. 5	248. 9
資源出荷量を増やす		21, 524	21, 955	22, 385	22, 600
事業に関わる項目	軽油消費量(l/t)	10. 48	10. 27	10. 06	9. 96

*化学物質としては作動油程度であり、PRTR対象物質の使用は無いことから、目標として取り上げていない。ただし、SDSの入手や保管等の維持管理に努める。

(2) 第二工場

2020年度(2017年6月～2018年5月)の実績を基準として3年間で5%削減させることを目標として定めた。目標値を下表に示す。

項 目		基準 (2020年度)	2021年度 2 %削減	2022年度 4 %削減	2023年度 5 %削減
①二酸化炭素排出量 (kg- CO ₂) 183,187	消費電力量(kwh/t)	13. 05	12. 79	12. 53	12. 40
	軽油消費量(l/t)	3. 87	3. 79	3. 72	3. 68
		183, 187	179, 523	175, 860	174, 028
③総排水量(m ³ /年)		378	370. 4	362. 9	359. 1
資源出荷量を増やす(t)		21, 524	21, 955	22, 385	22, 600

*化学物質としては作動油程度であり、PRTR対象物質の使用は無いことから、目標として取り上げていない。ただし、SDSの入手や保管等の維持管理に努める。

(3) 実績 (本社)

2022年6月～2023月5月の目標 (基準年比4%削減) に対する実績は以下の通りである。

項 目		目 標	実 績	目 標 と の 差 異	評 価
①二酸化炭素排出量 (kg- CO2)	電力消費量(kwh/t	11. 55	13. 59	2. 04 (+18. 0%)	未達
	軽油消費量(ℓ/t)	9. 96	13. 74	3. 78 (+38. 0%)	未達
394, 663		374, 930	335, 184	39, 746(-10. 6%)	達成
②廃棄物排出量 (トン/年)	廃プラ(t)	102. 52	124. 37	21. 85 (+21. 0%)	未達
	廃油(ℓ)	12, 785	6, 660	-6, 125 (-48. 0%)	達成
	木くず(t)	35. 01	39. 05	4. 04 (+12. 0%)	未達
③総排水量(m³/年)		249. 0	210. 5	-38. 5 (-15. 0%)	達成
出荷量を増やす(t)		21, 524	16, 055	-5, 469 (-25. 4%)	未達

* 電力の排出係数は、令和3 年度公表の東京電力の0. 441を使用した。

(4) 実績 (第二工場)

2022年6月～2023月5月の目標 (基準年比2%削減) に対する実績は以下の通りである。

項 目		目 標	実 績	目 標 と の 差 異	評 価
①二酸化炭素排出量 (kg- CO2)	電力消費量(kwh/t	12. 40	17. 11	4. 71 (+38%)	未達
	軽油消費量(ℓ/t)	3. 68	4. 91	1. 23 (+33%)	未達
183, 187		174, 028	177, 453	3, 425 (+2. 0 %)	未達
②廃棄物排出量 (ℓ/年)	廃液(ℓ)	0	0	0. 00 ()	
③総排水量(m³/年)		359. 1	251. 0	-108. 10 (-30. 0%)	達成
出荷量を増やす(t)		21, 524	16, 055	-5, 469 (-25. 4%)	未達

* 電力の排出係数は、令和3 年度公表の東京電力の0. 441を使用した。

5. 環境活動計画

(1) 本社

目標項目	具体的な取り組み内容		実施状況 2023年6月～ 2024年5月
1．二酸化炭素排出量の削減	電力	機材不使用時の電源オフ	○
		照明のＬＥＤの導入検討	△
		点けたら消す	○
	軽油	アイドリングストップ、急加速・急発進を止める	○
		定期整備の実施	○
		不使用時のエンジンオフ	○
2．廃棄物排出量の削減	廃プラ	再生利用の検討	○
		現状把握の徹底	○
	木屑	再生利用の検討	○
		現状把握の徹底	○
3．水使用量の削減	排水	節水活動	○

○：取り組んだ △：取り組み不十分 ×：取り組まなかった。

(2) 第二工場

目標項目	具体的な取り組み内容		実施状況 2023年6月～ 2024年5月
1. 二酸化炭素排出量の削減	電力	機材不使用時の電源オフ	○
		照明のLEDの導入検討	○
		エアコン温度設定	○
	軽油	アイドリングストップ、急加速・急発進を止める	○
		重機不使用時のエンジンオフ	△
2. 廃棄物排出量の削減	廃油	持込を減らす	○
		分別を徹底する	○
3. 水使用量の削減	排水	節水活動	○

○：取り組んだ △：取り組み不十分 ×：取り組まなかった。

6. 環境活動の取組結果の評価

(1) 二酸化炭素排出量の削減

・ 電力使用量について

仕入量が減少している割には電気の使用が多かった。この要因としては、お客様の多様化によりシャーター切断機やプレス機などを使用する入荷品が増加していることと設備の老朽化が影響している。

・ 軽油消費量について

本社: 要因としては重機(ユンボ等)を使用して選別を行なう必要のある物品の搬入量が増加傾向にあることが挙げられる。
第二工場: お客様の多様化によりユンボ等の重機を使用する選別が増加していることが挙げられる。

(2) 廃棄物排出量の削減(廃プラ・廃油・木くず・廃液)

本社

(廃プラ) 持込み量を減らすことと分別の徹底に努めたが、それを上回る搬入量となってしまった。
(廃油) プレス機や重機のオイル交換時に排出されるものでこれ以上の削減は中々難しい。
(木屑) 市のクリーンセンターなどで引き取らないタンスや机などの木製品の持込みが増えていることが最大の要因である。

第二工場

(廃液) 処理方法を改善したことにより排出が0になった。

(3) 総排水量削減

本社:、第二工場: 節水に対して、かなりの努力をした結果である。これ以上の削減は限界に近付いているように思える。

(4) その他

- ・ 整理・整頓に努め、今後も継続的に活動して行きたい。
- ・ 緑化活動は、四季折々の花が咲いており、お客さまからの評判も良く、今後も継続的に実施して行きたい。

7. 次年度（2024年度）の取り組み内容

7-1. 次年度の環境経営目標

（１） 本社

項 目		基準 (2023年度)	2024年度 1%削減	2025年度 1%削減	2026年度 2%削減
①二酸化炭素排出量 (kg- CO ₂) 335, 183	消費電力量(kwh/t)	13. 59	13. 45	13. 45	13. 32
	軽油消費量(ℓ/t)	13. 74	13. 60	13. 60	13. 47
		335, 183	331, 831	331, 831	328, 479
②廃棄物排出量 (kg/年)	廃プラ(t)	124. 40	123. 20	123. 20	121. 90
	廃油(ℓ)	6, 600	6, 530	6, 530	6, 468
	木くず(t)	39. 10	38. 70	38. 70	38. 30
③総排水量(m ³ /年)		211	208. 4	208. 4	206. 3
資源出荷量を増やす		16, 055	16, 216	16, 376	16, 537
事業に関わる項目	軽油消費量(ℓ/t)	13. 74	13. 60	13. 60	13. 47

当社は作動油、エンジンオイル、グリス以外の化学物質の使用はないので目標として取り上げていない。但し、SDS入手し常備する。

*電気の排出係数は、平成28年度公表の東京電力の排出係数0. 455を使用した。

（２） 第二工場

項 目		基準 (2023年度)	2024年度 1 %削減	2025年度 1 %削減	2026年度 2 %削減
①二酸化炭素排出量 (kg- CO ₂) 177,453	消費電力量(kwh/t)	17. 11	16. 94	16. 94	16. 77
	軽油消費量(ℓ/t)	4. 91	4. 86	4. 80	4. 81
		177, 453	175, 678	175, 678	173, 904
③総排水量(m ³ /年)		251	248. 5	248. 5	246. 0
資源出荷量を増やす(t)		16, 055	16, 216	16, 376	16, 537

当社は作動油、エンジンオイル、グリス以外の化学物質の使用はないので目標として取り上げていない。但し、SDS入手し常備する。

*電気の排出係数は、平成28年度公表の東京電力の排出係数0. 455を使用した。

7-2 . 次年度の取組内容

(1) 本社

目標項目	具体的な取り組み内容	
1 . 二酸化炭素排出量の削減	電 力	不使用時の電源オフ(せん断機・プレス機)
		照明のL E D 化推進
		点けたら消す
	軽 油	アイドリングストップ
		急加速・急発進をやめる
		フォークリフトのエコドライブ
2 . 廃棄物排出量の削減	廃プラ	不使用時のエンジンオフ
		再利用を常に検討
		持ち込みを減らす(ゴミ類)
	木くず	分別を徹底する
		再利用を常に検討
		持ち込みを減らす(ゴミ類)
3. 排水量の削減	排 水	分別を徹底する
		「節水の手順」による節水活動
		冬季凍結防止
4. 出荷量を増やす	出 荷	出したら止める
5 . リサイクル事業項目	軽 油	相場を見ながら出荷
		アイドリングストップ、急加速・急発進を止める 定速走行、最短ルート の検討、実践

(2) 第二工場

目標項目	具体的な取り組み内容	
1. 二酸化炭素排出量の削減	電 力	不使用時の電源オフ(せん断機・プレス機)
		照明のL E D 化推進
		点けたら消す
	軽 油	アイドリングストップ
		急加速・急発進をやめる
フォークリフトのエコドライブ		
不使用時のエンジンオフ		
3. 排水量の削減	排 水	「節水の手順」による節水活動
		冬季凍結防止
		出したら止める
4. 出荷量を増やす	出荷	相場を見ながらこまめな出荷

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

8-1. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

法令等の名称	対象の施設・設備・業務等	守るべき内容	適否
廃棄物処理法	- 収集運搬業者 一般廃棄物 産業廃棄物 - 中間処理業者 本社 - 排出事業者	・ 委託契約の締結 法第12条3	適
		・ マニフェストの発行 法第12条3・ 施行規則第8条の21	適
		・ マニフェストの返送管理 施行規則第8条25	適
		・ 産業廃棄物置場の表示と管理 法第12条	適
		・ マニフェスト 交付等状況報告書の提出 法第12条の3	適
		・ 廃棄物収集運搬・ 処理実績報告書の提出 第14条・ 14条の4	適
		・ 処理状況の確認(努力義務)	適
栃木県生活環境の保全等に関する条例 (騒音・ 振動)	- せん断機…本社(110kw) - 機械プレス…2 台 [アルミ 缶プレス] (15kw) …第二工場 [アルミ サッシプレス] (15kw) …本社	特定施設の設置届、変更届 県条例第25条～27条	適
自動車リサイクル法	・ 引取業者	- 許可の申請と登録 - 解体完了の確認 - 引取、引渡し の報告 - 最終所有者への通知 法第9条・ 第10条	適
	・ フロン類回収業者	- 許可の申請と登録 - 回収基準に従った回収フロン類年次報告 - 引渡し の報告 法第11条～14条	適
	・ 解体業者	- 許可の申請と登録 - 保有施設基準 (囲い、コンクリート 床、原則屋根等設置の解体作業所) - 回収基準に従った回収 (エンジンオイル、冷却水、タイヤ) - エアバック類の回収・ 引渡し 及び報告 - 解体自動車の引渡し 法第15条・ 16条	適
	・ 破碎前処理	- 許可の申請と登録 - 基準に従ったせん断 - 破碎業者への引渡し - 電炉メーカーに製鋼原料として出荷 法第17条・ 18条	適
	・ 運搬車両(トラック17台)	・ リサイクル券の保有 法第34条	適
下水道法	・ 本社事務所	・ 使用開始届出 法第11条の2	適
浄化槽法	・ 第二工場事務所(10 人槽)	- 定期点検 - 水質検査(11条検査) 法第7条・ 第11条	適
フロン 排出抑制法	・ 第一種フロン類 充填回収業者	- 許可の申請と登録 - 回収基準に従った回収フロン類年次報告 - 引渡し の報告 法第9条・ 法第20条～22条	適
	第一種特定製品 [業務用エアコン] (7. 94kw) …第二工場	- 簡易点検(3ヶ 月毎) - 定期点検	適

8-2. 違反、訴訟等の有無

環境関連法規について、2024年6月20日に遵守状況をチェックした結果、違反は1件もありません。なお関連当局よりの違反等の指摘に関しても過去5 年間に上ありません。また、訴訟等も同様に創業以来1 件もありません。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

前期は金属相場が悪かった。その上入荷量も減り、また、大型の解体案件もなく総じてぱっとしない一年であった。従って売上も対前年で減少している。このように入荷量が減少している割には電力や軽油の使用量が増えてしまっている。この背景には客の多様化が挙げられ、それによって選別、解体方法も複雑化している。この傾向は今期も続いており、今期は我慢の年と考えている。今期は新人の指導、育成などに力を入れ、力を蓄えて2025年度には一気に攻勢を掛けていく考えである。従業員各位も一人一人がより一層のムダの排除を意識して取り組みを進めていって貰いたい。今後に向けては設備投資も一段落したので、第二工場の機能の向上を図り、マテックに頼めば安心と思って頂けるような会社を目指していきたい。

環境経営方針	変更の必要は無い。
環境経営目標	本社、第二工場の両方において、軽油、電気使用量等の削減目標の未達成が目立つので再度、目標について検討すること。
環境経営計画	変更の必要は無い。
実施体制	現行の体制で機能しているので変更の必要は無い。
環境経営システム	変更の必要は無い。